※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２９

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	Standard　数学Ⅰ（東京書籍）						
副教材等	STAGE 数学Ⅰ＋A（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

● 必ず自分で解こう

数学の勉強では，答えを眺めてわかったつもりになっていても，実際に問題を解くと解けないことがよくある。数学の勉強をするときには，必ずノートにきちんと計算したり図を描いたりしながら解いていくようにしてほしい。そうすることで，自分自身が本当に理解できているかどうかを確認することができ，自分の力を伸ばしていくことにつながっていく。

● わからない問題でもあきらめない

わからない問題にぶつかったとき，簡単にあきらめてはいけない。解けない問題を解こうとする過程が大切であり，それが本当の勉強であり力を伸ばす源となる。難しい問題が解けたときは本当にうれしいものである。どうしてもわからない問題があったら，遠慮せずに質問に来ること。絶対にそのままにしておかないことが重要である。疑問点はその日のうちに解決していくことを心がける。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析について，概念を理解し，基礎的な知識の習得と処理技能の習熟を目指す。
【思考力，判断力，表現力等】数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析について，事象を数学的に考察する能力や，習得した知識，習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。
【学びに向かう力，人間性等】数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析について，数学的な見方や，考え方のよさを認識し、見通しをもって粘り強く取り組み、その過程や結果を振り返って評価・改善してよりよい成果を求めようとする態度を育てることを目指す。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データを適切な手法を選択して分析を行い，考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数と式	第１節　式と計算 ・多項式の加法と減法 ・多項式の乗法 ・因数分解	a:多項式の和、差、積や２次式の因数分解などの基本的な計算ができる b:ある文字について整理したり、式を 1 つのまとまりと見るなど工夫をして展開や因数分解をすることができる。 c:式変形の工夫について、他の解法に関心を持ち、より良い方法について考察しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート 小テスト	レポート 小テスト
		第２節　実数 ・実数 ・根号を含む式の計算	a:実数の分類や絶対値、平方根を理解し、これらの計算ができる。 b:実数と数直線の関係や数直線上の 2 点間の距離について理解している。 式の特徴に注目して、対称式の値を求めることができる。 c:数の体系を、計算の可能性と関連付けて、その包含関係などを整理し、考察しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート レポート
		第３節　１次不等式 ・不等式の性質 ・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式	a:数量の大小関係を、不等式を用いて表すことができる。 不等式の解の意味を理解し、不等式を解くことができる。 b: A＜B＜C の形の不等式の意味を正確に理解し，連立不等式とみて解くことができる。 身近な問題に不等式を利用して解決することができる。 c: 現実の問題について，必要な条件を選んで数学化し，それを解決しようとする。また，得られた解を現実問題に当てはめ直し，それを考察しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート レポート	レポート

※令和４年度以降入学生用

	第2章　集合と命題	・集合 ・命題と条件 ・命題と証明	a:集合に関する基本的な用語や，集合の要素の表し方を理解している。 命題の真偽の意味を理解し、判定できる。 b: 集合の包含関係を記号や日本語で正しく表現できる。 他人が考えた命題や条件文が妥当か判断できる。 対偶や背理法を活用して命題を証明することができる。 c: 3 つ以上の集合についても，共通部分や和集合について考察しようとする。 命題の真偽や必要条件，十分条件について，集合と関連付けて理解したり説明したりしようとする態度がある。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート レポート	提出ノート レポート
2学期	第3章　2次関数	第 1 節　2 次関数とグラフ ・関数とグラフ ・2 次関数のグラフ	a:関数の定義を理解し、可能な場合について式で表すことができる。 2 次関数のグラフをかくことができる。 b:2 次関数のグラフの平行移動について頂点の移動に着目し考察できる。 c: 関数のグラフの平行移動について一般的に理解し、式を作ることができる。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート 小テスト	提出ノート レポート

※令和４年度以降入学生用

		第 2 節　2 次関数の値の変化 ・2 次関数の最大,最小 ・2 次関数の決定	a:条件から関数の最大値と最小値を求めることができる。 条件を満たす 2 次関数を求めることができる。 b:定義域や係数に文字を含む 2 次関数について, 適切に場合分けして最大値, 最小値を求めることができる。 2 次関数を決定する際, 問題に応じて適切な式の形を判断して使うことができる。 c: 数学の事象や日常生活の事象について, 関数を用いて解決しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート 小テスト	レポート
		第 3 節　2 次方程式と 2 次不等式 ・2 次方程式 ・2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 ・2 次不等式	a:2 次方程式、2 次不等式を解くことができる。 2 次方程式の解や 2 次不等式の解の種類の判断ができる。 b:2 次方程式の解と判別式、放物線のグラフの関係を理解し、解の判別に利用できる。 c: 数学の事象や日常生活の事象について, 2 次不等式を用いて考察しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート 小テスト	提出ノート レポート
	第4章　図形と計量	第 1 節　三角比 ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比拡張の	a:三角比の定義を理解し、三角比の表や、相互関係、補角・余角の関係式を適切に利用することができる。 b:角の値によって、三角比の値がどのように増減するか表現できる。 角の範囲に注目し、解の個数を適切に判断できる。 c:三角比の値が角の大きさだけで定まることに関心を持ち、日常的な事象を三角比を用いて解決しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	提出ノート レポート	提出ノート レポート

※令和４年度以降入学生用

		第２節　三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の活用 ・三角形の面積 ・空間図形への活用	a:三角比を用いて、条件から三角形の角や辺、面積などを求めることができる。 b: 四角形の問題を、2 つの三角形に分割し、求めることができる。 空間図形から平面図形を取り出し，辺の長さや面積、体積などを求めることができる。 c: 正弦定理を用いる場合と余弦定理を用いる場合で解の吟味が異なることについて考察しようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート 小テスト	提出ノート レポート
３ 学 期	第５章　データの分析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・2 つの変量の間の関係 ・データの分析を活用した問題解決 ・仮説検定の考え方	a:平均や分散などデータを特徴付ける様々な値について定義を理解し、求めることができる。 b: データから適切な代表値などの情報から、データの特徴を比較できる。 仮説検定の考え方を理解している。特に、仮説が棄却できない場合の解釈について正しく理解している。 c: 統計的探究プロセスについて理解し，解決したい問題に対してデータを集めて分析したり，その結論を振り返ったりして，よりよい結果を追求しようとする。また，それにコンピュータなどの情報機器を積極的に用いようとする。	定期考査 提出ノート 小テスト	定期考査 提出ノート レポート	提出ノート レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度